

健康経営の現状と今後の展開

橋本 泰輔

目 次

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康」の新たな価値 2. 健康経営の成り立ちや人的資本経営などの新たな動き 3. 健康経営度調査と評価のための五つのフレームワーク 4. 健康経営の効果の可視化と質の向上 | <ol style="list-style-type: none"> 5. 新たなマーケットの創出 6. 顕彰制度運営事務局の自立化 7. 情報発信やステークホルダーとの対話 8. 近年のトレンド 9. 結びに |
|--|--|

従業員の健康保持・増進を含む人材投資を「コスト」と捉える考え方は、いまや時代遅れになっている。経営者には、人的資本の価値を最大限引き出すための「投資」として、自ら率先して健康経営を推進することが求められる。経済産業省では、あらゆるステークホルダーから健康経営がさらに評価される社会を目指し、民間事業者の創意工夫を生かした普及啓発の強化、蓄積された健康経営度調査回答データの分析による効果の可視化と質の向上、国際展開などに取り組んでいく。

1. 「健康」の新たな価値

「健康」とは、WHOでは「Health is a state of complete, physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity（病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること）」とされている。1946年に定義されて以降、1998年のWHO執行理事会において、「spiritual

（霊的）とdynamic（動的）」を加えた新しい健康の定義が検討されるなど、様々な議論がされている。

例えば、オタワ憲章（1986年）（注1）では、「身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態に到達するためには、個人・集団は成したいことを定義し、実現し、ニーズを満たし、周囲の環境を変え、そのための対処をすることができなければならない。そのため、『健康は目的ではなく日々の生活の資源』と見なされる」とされている。また、



橋本 泰輔（はしもと たいすけ）

経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長。2002年3月東京大学法学部卒業、同年4月経済産業省入省、2016年大臣官房総務課政策企画委員、2017年中小企業庁総務課政策企画委員、2018年サントリーホールディングス（出向）を経て、2022年より現職。